

愛顔 かがやけ 池島魂



～「今日も楽しかった。明日も楽しみ。」と思える学校を目指して～

発行：令和8年6月26日（金）NO8 文責：校長 津田 幸一

学校 HP URL <https://www.nagasaki-city.ed.jp/ikeshima-h/>

教育週間

来週から、「池島っ子のこころを見つめる週間」です。期間中は、ぜひ島民の皆様にも、ご来校いただき、授業等をご参観いただきたいと思います。子どもたちの励みになります。よろしくお願いいたします。

心を見つめる教育週間」は、子供たちが自らの内面と向き合い、生命の尊厳や他者への思いやりを再確認することを目的としています。いじめ等の悲しい事件を風化させず、学校・家庭・地域が連携して心の教育を推進する契機となります。自己の生き方を見つめ直し、豊かな人間性と倫理観を育む上で極めて重要な意義があります。

校長講話

講話では「瞬きの詩人」として有名な水野源三さんを紹介します。

源三さんは脳性麻痺により瞬きだけが可能なわけです。母親が、50音表を使って、1文字、1文字指していきます。

源三さんは、これだという文字を瞬きで母親に知らせます。そして母親は、その文字をノートに記します。1文字ずつ、1文字ずつをつむぐ方法で、途方もない時間を要して1つの詩が出来上がるのです。このようにして源三さんと母親との二人三脚でつづった文章であることを知ると、「言葉の大切さ」を実感することができます。さらにまた、その重みを感じることができます。

今を楽しんで生きることの大切さは、源三さんのつづった言葉や笑顔の写真（右）からも伝わってきます。

水野源三さんについて

水野源三さん（1937年1月2日 - 1984年2月6日）は、日本の詩人です。

『瞬きの詩人』と呼ばれるゆえんは、幼い頃から病弱で、12歳の時に四肢麻痺と失語症となり、その後は意思表示もまばたきのみとなったからです。しかし、源三さんは持ち前の明るさと前向きさで、まばたきによって詩や短歌を創作し、多くの人々に感動を与えました。

彼の詩は、生命の尊さや愛、希望などをテーマにしたものが多く、読む人の心に深く響きます。代表作には「こんな美しい朝に」「いのちいっぱい」「ありがとう」などがあります。

源三さんは1984年、47歳という若さで亡くなりましたが、彼の作品は今もなお多くの人々に愛され続けています。

★水野源三さんの詩

こんな美しい朝に
こんな美しい朝に
わたしは生まれてきた
ありがとう
ありがとう



いのちいっぱい
いのちいっぱい
生きていこう
ありがとう



恐しみよ ありがとう
—水野源三の詩—

ありがとう
ありがとう
ありがとう
すべてのものに
ありがとう

水野源三さんについては、以下の書籍で詳しく紹介されています。

- 「こんな美しい朝に：瞬きの詩人水野源三の世界」（いのちのことば社）
- 「水野源三詩集」（思潮社）

★水野源三さんの功績

水野源三さんは、自身の創作活動を通して、すべての人が豊かに生きることができることを示しました。

水野源三さんの生き方は、私たちに多くのことを教えてください。

- どんな困難な状況でも、希望を捨てずに生きること
- 周りの人々に感謝の気持ちを持つこと
- 命の尊さを忘れずに生きること

水野源三さんは、これから多くの人々に愛され続けるでしょう。

夏休みに子どもたちが読む本の選書に加えていただければ幸いです。

